



# リハニュース No.40

創刊 10周年 記念号

発行：社団法人 日本リハビリテーション医学会 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6丁目32番3号 Tel 03-5206-6011  
Fax 03-5206-6012 ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jarm/> 年4回1、4、7、10月の15日発行 1部100円



## 特集

# リハビリテーション医育成 アクションプラン策定WGについて —背景や活動方針、目的など—

日本リハビリテーション医学会 常任理事 上月 正博

### 背景

日本リハビリテーション医学会はリハビリテーション（以下、リハ）科専門医・認定臨床医制度を導入し、リハ医学に関する学術の進歩と医療水準の維持向上のために貢献することを目的として、

リハ医学・医療に関する専門的な知識や技術を有する医師を認定してきました。2008年7月2日現在、リハ科専門医は1,483名、認定臨床医は4,112名にのぼります。

しかし、わが国は予想以上の速いペースで超高齢化社会を迎えるとともに、医療の高度化（新生児医療、救命医療、臓器移植、再生医療等）や重複障害など障害の複雑化が生じ、リハ医学・医療に対するニーズは予想をはるかに超えるほど高まってきています。このため、リハ医学・医療に精通したリハ科専門医・認定臨床医の供給が追いつかない状況にあります。特に、リハ科専門医数は日本リハ医学会会員数の15%未満であり、他学会と比較してもその割合が低いといえます。

昨年、リハ科専門医会の「リハ科専門医需給に関するWG」では、将来のリハ科専門医必要数を3,078～4,095人と推計しました。現在の数からの不足は1,694～2,711人です。リハ科専門医は毎年30～50人ずつ増加していますが、このペースでは3,000人への到達が2047年、4,000人への到達が2069年と予測され、国民からのニーズを満たせないことは明らかです。

2008年6月26日付けの日本学術会議の要望書「信頼に支えられた医療の実現—医療を崩壊させないために」では、

「本来、専門医制度の機能は、専門医の質を保証しつつ必要な専門医の数を分野ごと、地域ごとに決定し、持続的に一定の臨床経験を持った専門医を養成するということである」と謳っています。日本リハ医学会における専門医制度では、これまでリハ医療の質的向上と普及に力を注いできました。しかし、今後、社会に対する責任を一層果たしていくためには、リハ医療を担ううえで必要な医師数の確保についても精力的に考えるべき時期に来ているといえます。

すなわち、良質のリハ医療を多くの国民に提供する体制を作るために、速やかに現行の育成制度の問題点を洗い出し、質を担保しながらリハ科専門医・認定臨床医数の適正化を図る対策が急務です。そこで、専門医会、教育、認定、試験問題、広報などの関連委員会を横断的に繋ぐ「リハ医育成アクションプラン策定WG」を設置し、リハ医療に関与する医師を包括的かつ効率的に育成する実効性のあるプランを策定・実行することになりました。

### これまでの経過 (ミッション・活動期間・メンバー・活動方法など)

本WGのミッションは以下の点です。すなわち、(1) 質を担保しつつリハ科専

### 目次

- 特集：リハ医育成アクションプラン策定WGについて……………1-3
- リハ・写真コンテスト表彰……………4-5
- INFORMATION：編集委員会、評価・用語委員会、認定委員会、障害保健福祉委員会、診療ガイドライン委員会、国際委員会、北海道地方会、北陸地方会、近畿地方会、中部・東海地方会、医学生セミナー施設一覧……………6-8
- 第46回学術集会：演題募集中……………8
- 専門医会コラム：第3回学術集会報告……………9
- リハ医への期待②脊髄損傷者のリハ……………10
- REPORT：市民公開講座、関連学会報告……………11
- 外国人リハ医交流印象記……………12-13
- 医局便り：東京湾岸リハビリテーション病院……………13
- 広報委員会より、事務局だより……………14
- お知らせ……………16

広告：医歯薬出版(株)、金原出版(株)、武田薬品工業(株)、エーザイ(株)

門医・認定臨床医数の適正化を図る方策を具体的に検討する。(2) 認定臨床医の位置付けについて検討する。そして、具体的に(3) アクションプランを策定し、役員会に報告する。

活動期間は1年間とされ、次項で述べるように、アクションプランを策定し、役員会に報告し、さらに、2009年のリハ医学会総会で承認を得るまでとされています。

プランの策定には、委員会の垣根を越えた集団による検討が必須であることから、構成メンバーは、常任理事会、専門医会、各種委員会の担当理事や委員長などを中心にするのが考えられました。

このような構想が理事会(2008年7月26日)で承認され、各関連委員会に伝達され、各委員会で8月より具体的な検討やWGのメンバーの推薦が行われました。その結果、上月正博が本WG担当理事となり、WGメンバーは、常任理事会(上月正博、吉永勝訓)、専門医会(佐伯 覚、池田 聡)、教育委員会(椿原彰夫、岡島康友)、認定委員会(蜂須賀研二、菊地尚久)、試験問題委員会(安保雅博、和田 太)、広報委員会(田島文博、志波直人、山田 深)、地方会連絡協議会(生駒一憲)の14名となりました。

活動の方法は、大人数で短期間ということから、メーリングアドレスによるメール審議と対面会議の組み合わせとしました。さらに、1) 何が問題か、2) どのような対応策が考えられるか、3) その対応策のメリット、デメリットに着目しながら議論を行うことにしました。昨年9月よりメール審議が開始され、各委員会での具体的な検討もさらに熱を帯びました。また、11月10日には、第1回リハ医育成アクションプラン策定WG対面会議開催が行われ、3時間にわたり熱のこもった討議がなされ、本骨格案が形成されました。12月4日現在で90通にわたるメール審議を行ってきました。その後もメール審議が続けられ、「リハ医育成アクションプラン(案)」を福岡で行われた第3回リハ科専門医会学術集会の特別企画として提出しました。

専門医会特別企画では、「リハ医育成アクションプラン(案)」をもとに、WGメンバーの各委員会委員長が具体的な取り組み内容をわかりやすく説明した

後、会場の専門医の皆さんから貴重なご意見をいただきました。特別企画に引き続いて行われた意見交換会でも多数のご意見をいただけたことに感謝しております。それらのご意見も考慮してまとめた最新版の「リハ医育成アクションプラン(案)(2008年12月11日)」を表に示します。

## 基本的な考え方と今後のスケジュール

誤解のないようにしていただきたいことは、「リハ医育成アクションプラン案(2008年12月11日)」では、リハ科専門医の質を低下させることなく、数を増やす方策を考えていることです。「数を増やせば質が低下するのでは?」という心配もあるかもしれませんが、リハ科専門医の質は下げつつもありません。リハ科専門医試験の内容に関し、口頭試問も含めて情報開示して透明度を上げ、また、受験資格の緩和を図り、リハ科専門医試験の総受験者数を増加させることでリハ科専門医数の増加を狙います。

一方、認定臨床医からリハ科専門医への移行措置が行われてきましたが、これは当初の予定通り今春で終了いたします(本号p6、16参照)。朝令暮改のようなやり方は学会としては問題があるからです。また、リハ認定臨床医の位置付けに関しては今後も検討を重ねていきますが、認定臨床医がリハ医学・医療を担う重要な役割を持っていることは言うまでもありません。ただ、認定臨床医はリハ医学会で認定した資格ではあるものの、リハ科専門医や他学会の専門医のように、日本専門医制評価・認定機構などで認定されたものではないため、今後、わが国の専門医制度が整備されていくにつれ、認定臨床医の位置付けが変化していく可能性は否定できません。また、本学会の認定臨床医数4,112名はリハ科専門医数1,483名に比較すると3倍と多く、リハ科専門医数を増加させるには、認定臨床医がリハ科専門医試験をどんどん受験していただけるようにしていくことも重要と考えられます。認定医取得後に専門医試験を受験するのに妨げとなる項目に関しては緩和の方向で考えていきたい

と考えています。

さらに、医学生や初期研修医に対するリハ医学への関心を抱いていくようにする正統的なアプローチに関しても、出前授業や研修医ネットヘリハ科の広告を掲載するなどの積極的な関与が必要であると考えます。

今後の予定は、メール等によるパブリックコメントの募集を行いながら、2009年1月24日の理事会に提案し、何回かの審議を経て、現行制度下で実行可能なプランは速やかに具体化しつつ、規則等の改正が必要となる事項については、2009年6月のリハ医学会総会にて会員の皆さんに承認していただくことになっています。承認後は、項目ごとに担当の委員会を中心に実行に移ります。本アクションプランは、多くの委員会とその構成員は横断的に同時進行的に行わないと効果が薄いわけであり、承認後は、「ヨーイ、ドン」で同時進行的に行うことで相加・相乗効果を上げられる可能性があります。

## リハ医学会会員にお願いしたいこと

表に示した「リハ医育成アクションプラン案(2008年12月11日)」は未だ決定されたものではありません。特に認定臨床医の位置付けについては、まだ検討課題のリストアップに留まっており、さらに議論を深めていく必要があります。今後、パブリックコメントや理事会での議論を経るとともに、日本専門医制評価・認定機構などの動きを睨みながら、より完成度が高く、かつ実行可能なプランにしていく所存です。

リハ医療に従事するわれわれとその仲間、後輩が、将来にわたって国民のニーズ(期待)に質・量ともに十分応えられるだけのパワーを持てるように、また、誇り高く対応できるようになるための重要なプランです。ある意味では本学会の将来の存亡を賭けたプランともいえるでしょう。ぜひ、率直なご批判・ご提案・ご意見をメールでお寄せいただければ幸いです。パブリックコメント専用メールアドレスは [ap\\_public@jarm.or.jp](mailto:ap_public@jarm.or.jp) です。よろしく願いいたします。

表 リハ医育成アクションプラン（案）

基本的考え方			
1. リハ医学・医療を担う人材（主にリハ科専門医および認定臨床医）の質的・量的拡大を図る。その目的のために、2., 3. を検討する。	2. リハ医学の指導的立場を担うべき専門医の質を低下させることなく、その数を増やす。	3. 認定臨床医資格の位置づけを改めて明確にする。そして現在広い分野でリハ医療の実践を担っている医師をできるだけ本学会に取り込み、認定臨床医資格の取得を目指していただく。	
A 専門医増加・質の向上に向けた方策			
【1】 現行制度下でのプラン		【2】 制度変更下でのプラン	
<p>1. リハ科専門医会の対応</p> <p>a 各種委員会のコアとしての活動</p> <p>b WEBでの専門医掲示板の活用</p> <p>c メールマガジンの活用</p> <p>d 若手リハ科専門医の会の活動</p> <p>e 女性リハ科専門医の会の活動</p> <p>f 初期臨床研修病院へのアンケート調査で、プログラムにリハ科を選択できるよになっているかを調査し、選択している医師に当学会の紹介の書類を送る</p> <p>2. 教育委員会・認定委員会の対応</p> <p>a 筋電、切断、小児、福祉など従来の6研修会に加えて、新規に実習研修会を企画し開催を促す 従来どおり、本研修会受講を認定施設研修期間の代替とすることを継続する（1日を1か月へ換算）</p> <p>b 一般医家リハ研修会を疾患別リハ研修会に再編して専門医に必要な研修会に変えていく 従来どおり、認定臨床医受験の条件にするとともに、生涯教育研修の認定単位数増を検討する</p> <p>c 疾患別リハ研修会をベースに自習のための疾患別リハサウンド付DVDを作成する</p> <p>d 専門医試験の過去問題の解説講習会を開催する</p> <p>e（専認構対策として）日整会、神経学会などのリハ関連学会の専門医とリハ科専門医の整合性を検討する</p> <p>f 専門医試験試験官の faculty development を行う</p> <p>3. 試験問題委員会の対応</p> <p>a 試験問題の再検討（各出題分野の問題数設定の再検討、新作・プール・画像問題の割合の設定、良問の新作、画像に加え図表問題の導入、臨床・症例問題の比率のアップ、出題領域の若干偏りの是正、プール問題の整理、認定医問題の選定）</p> <p>b 学会誌での試験問題の公表と良問の解説掲載を行う</p> <p>c 共通問題を導入する</p>	<p>4. 広報委員会の対応</p> <p>a リハ科専門医試験の受験情報拡大：専門医試験問題の公表、参考書・参考文献の公表、解説書の作成</p> <p>b HPでリハ科専門医の活躍ぶりをアピールできる動画（嚙下、エコー、ブロック等技術紹介中心）など</p> <p>c リハ講義に利用できる魅力ある動画媒体の提供を行う</p> <p>d 研修医向けサイトを充実する：初期臨床研修でリハ科を選択できる病院を公表する</p> <p>e 医学部学生にアピールする広報を充実させる</p> <p>f 女性医師にアピールする広報を充実させる</p> <p>5. 地方会連絡協議会・地方会の対応</p> <p>a 地方会にリハ科専門医受験相談窓口を開設する</p> <p>b 講演会に研修医向けの内容のものを入門コースとして入れる</p> <p>c 実習研修会（入門コース、応用コース）を復活して、その受講を研修期間に換算する</p> <p>d 地方会集会で研修医対象の公開講座を設ける</p> <p>6. 診療報酬上の対策</p> <p>a リハ科専門医に神経学的診察料を認めるよう働きかける</p> <p>b リハ処方料を創設するよう働きかける</p> <p>c 回復期リハ病棟における専門医専従制に加算を設けるよう働きかける</p> <p>7. 渉外：医学教育面の対策</p> <p>a リハ医学講座のない大学医学部、とくに国公立大学に対して理事長名で講義を申し入れる</p> <p>b 初期臨床研修の地域医療研修の受入れ先にリハ医学会研修病院を加えてもらうよう申し入れる</p>	<p>教育委員会・認定委員会・試験問題委員会・広報委員会の対応（専門医受験資格の緩和）</p> <p>a 認定研修施設での常勤の義務化緩和</p> <p>1) 認定研修施設以外に勤務している本学会員が、認定研修施設に定期的に臨床研修に行っている場合は、研修日数に相当する期間を、一定期間の研修期間として認定する（指導責任者の認定が必要）</p> <p>2) 認定研修施設以外に勤務している本学会員が、認定研修施設から定期的に来るリハ科専門医に指導を受ける場合は、一定期間の指導日数に相当する期間を、研修期間として認定する（指導責任者の認定が必要）</p> <p>3) 認定臨床医取得後、2年間以上リハ医療の臨床に携わった場合は、その期間が認定研修施設でなくても、研修期間と認定する（勤務証明書および勤務内容の提出が必要）</p> <p>b 受験資格に直結する研修会の開催増加</p> <p>1) IT通信による講習会</p> <p>2) IT通信により分野ごとに（各地方で）受験させ、8分野全てに合格した者に受験資格を与える</p> <p>c 緩和に伴う質の低下の防止</p> <p>1) 専門医試験の質を維持する</p> <p>2) 専門医資格継続では全領域の教育研修講演を聴講しなければならない</p>	
B 認定臨床医の位置づけについての明確化と増加に向けた方策【検討すべき事項】			
1. 認定臨床医の位置づけ	2. 認定臨床医受験資格の見直し（必要であれば）	3. 認定臨床医試験問題の見直し	4. その他

# 第1回

# リハビリテーション・写真コンテスト



## 最優秀作品 「希望の視界」

馬場 尊 (藤田保健衛生大学医療科学部リハビリテーション学科)



## 佳作 「志は高く」

田邊 亜矢  
(川崎市立川崎病院)

広報委員会では、医学、医療としてのリハビリテーションの意義を広く社会に周知するとともに、人材の育成へ向けたプロモーション活動の一環としてリハビリテーション・写真コンテストを実施いたしました(2008年10月1日~12月15日)。75作品と、沢山の力作をご応募いただきましたが、コンテストの主旨に照らし合わせて特に素晴らしい作品を掲載させていただきました(敬称略)。本コンテストを通して、わが国におけるリハビリテーションの進展へ向けた機運が一層高まることを期待しています。

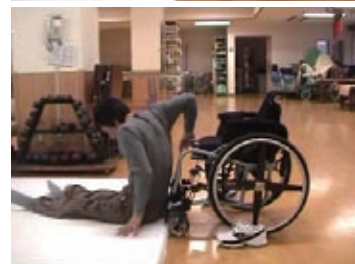
(委員長 山田 深)



優秀作品

## 「川岸での歩行訓練」

阿部 玲音（慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター）



佳作

## 「床トランスファー」

水野 勝広（村山医療センター）

特別賞

## 「将来につなげるいたずら」

平間 聡子（仙台医療技術専門学校）

（作者コメント）クラス交流会で風景を撮っているのを邪魔しようとする学生のいたずらから始まった写真です。まだ、小さな心配な手ですが、この手が、将来のリハビリテーションを支えられるよう、大事にし、私たちが出来ることを精一杯がんばっていきたいと思います。



## 編集委員会

リハニュース39号でも簡単にご紹介いたしましたが、現在進めております電子査読（投稿）システムについて現状をご報告いたします。

Jpn J Rehabil Med編集委員会は、電子査読システム導入にあたり、2007年12月からJ-STAGEと打合せを重ねてまいりました。本誌は、編集委員長と編集委員、外部査読者で論文の審査を行っていますが、J-STAGEの持っている種々の審査パターンの中で最も近いパターンを選び、本誌にあわせた画面のカスタマイズ化を昨年4月～6月、9月一杯と2期にわたって行いました。現在は、本運用開始直前までに至っています。

電子査読（投稿）システムでは、投稿者情報登録機能があり、著者は事前にアカウントを登録すると、新規投稿や審査中の原稿など複数の投稿が一元的に管理可能になります。

また投稿する原稿や図のPDF化も可能になります。外部査読者には、いままでどおり電子メールを通じて査読を依頼することになりますが、審査原稿等はすべてWEBから入手可能で、審査状況も常に確認できます。

システム導入に伴い投稿規定も一部変更を検討中です。掲載論文数が少ないのに、というご批判もあるかもしれませんが、論文の投稿を促進し本誌の国際化の第一歩になると考えています。変更点につきましては順次アナウンスをいたしますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（委員長 長岡 正範）

## 評価・用語委員会

委員の交代があり、昨年10月で任期満了となった浜松医科大学の美津島先生の後任に松阪中央総合病院の太田先生が加わりました。委員会は3カ月に1回のペースで開いており、今年度の課題を片付けることと来年度の準備にかかっています。

オンラインレセプト請求などで使われているMEDIS-DCの標準病名に切断用語などを中心にリハ100語強の追加要望を行いました。結果が分かり次第ご報告いたします。

システム委員会のご尽力で、会員ページができましたが、当委員会も会員ページ活性化に貢献すべく、特典を用意します。これまで会員の方に制限できず断念していましたが、リハ用語集から作成したMS-IME版とATOK版の日本語変換用リハ医学辞書を会員ページで提供します。

オンライン版リハ用語辞典が当委員会の最大の課題ですが、理事会でも承認いただき、準備のための予算もつきました。来年度の予算要求に向け、システム委員会と連携しながら、準備を進めています。オンライン辞典での引用や著作権の問題について、勉強会を行う予定です。

また当委員会は日本医学会用語委員会の分科会で、リハ用語だけでなく、日本医学会の用語の普及も職務の一部です。オンラインでの文献検索が普及し、シソーラスについてIndex Medicusの時代ほど厳しくなくなりました。逆説的ですが、ITの進んだ時代にこそ用語の標準化が大切であり、医療、学問の進歩に役立つ議論ができる共通の土台作りを評価・用語委員会としてお手伝いする所存です。

（委員長 根本 明宜）

## 認定委員会

### 1. リハビリテーション科専門医への移行に関する資格審査

認定臨床医のリハ科専門医移行の経過措置期間は本年3月31日までとなっています。筆記試験を要する方には3月22日に東京の大手町サンケイプラザで開催される第11回試験が最終となります。申請締切は2月25日必着となっていますので、該当される方はご準備ください。学術業績の必須項目は日本リハ医学会年次学術集会での学会抄録2編以上（主演者、共同演者の別は問いません）とリハ医学に関する論文1編以上（筆頭著者か否かは問いません）となっています。詳細は学会誌第45巻11、12号をご参照ください。

### 2. 専門医活動報告書の提出

本年より専門医の資格更新にあたり、専門医活動報告書の提出が必要となりました。内容は診療及び活動実績と医療倫理及び安全に関する項目となっています。先日活動報告書の提出に関する手引きを送付しておりますが、会員の皆様から「説明がわかりにくい」等のご指摘を受けました。該当される先生方に申請書類を送付する際にはさらにわかりやすいものに改めて再度お送りする予定ですのでよろしくお願いいたします。

（委員長 菊地 尚久）

## 障害保健福祉委員会

### 会員に対する地域リハビリテーション・Web アンケート開始

この度、障害保健福祉委員会では会員の皆様を対象に地域リハに関するアンケート調査を行うこととなりました（3月31日締切）。

ご承知の通り、地域リハ活動は社会資源の乏しい発展途上国で始まりました。その後、先進国における障害者の自立生活運動などの影響を受け、現在、先進国も含めた全ての国や地域で通用する「ノーマライゼーションを目標」にした「障害者を含めた住民と専門家が協同して行う活動」に発展しています。

社会資源が乏しいが故に発展途上国で用いられた「住民ボランティア」は障害者の生活意欲やQOLを高め、先進国においても対応困難な高次脳機能障害のような重度障害者に応用することで大きな成果が認められています。さらに、地域リハ活動を通して明らかになった支援体制を用いて、わが国では高齢者の介護予防や地域ケアが行われています。

今後、高齢者や障害児・者の自立と社会参加を促進するためには地域リハの理念と活動が不可欠ですし、地域リハ活動が実効あるものになるためにはリハ医の積極的な参加が求められています。

今回の調査ではリハ医の参加できる要因を検討し、地域リハ活動が推進できる体制を提案します。リハ医学会ホームページ、会員用Webシステムからアクセスして比較的短時間にご回答いただけますので、アンケート調査にご協力お願い申し上げます。ログイン方法は、学会誌第45巻7号をご参照ください。（委員長 榎本 修）

## 2009年医学生セミナーにご協力いただける施設

- 北海道大学病院
- 札幌医科大学附属病院
- 東北大学病院
- 宮城厚生協会総合病院 長町病院
- 鶴岡協立リハビリテーション病院
- 独立行政法人国立病院機構山形病院
- 医療法人社団帰厚堂 南昌病院
- いわてリハビリテーションセンター
- 群馬大学医学部附属病院リハビリテーション部
- 千葉大学医学部附属病院
- 千葉県千葉リハビリテーションセンター
- 日本医科大学千葉北総病院
- 亀田総合病院リハビリテーション科
- 東京湾岸リハビリテーション病院
- 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室
- 慶應義塾大学病院リハビリテーション科
- 東京大学医学部附属病院リハビリテーション部
- 東京慈恵会医科大学
- 杏林大学医学部リハビリテーション医学教室
- 東京厚生年金病院リハビリテーション科
- 東京都立神経病院
- 西東京警察病院
- 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
- 多摩北部医療センター
- 埼玉医科大学
- 昭和大学
- 東海大学リハビリテーション科
- 横浜国立大学附属病院
- 金沢大学病院
- 医療法社団勝木会 やわたメディカルセンター
- 慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター
- 聖隷三方原病院
- 静岡市立清水病院
- 第17回医学生夏期リハビリテーションセミナー（主催：医学生とリハビリテーションを語る会、共催：NTT 東日本伊豆病院）
- 藤田保健衛生大学
- 愛知医科大学病院リハビリテーション科
- 長野県立こども病院
- 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター
- 鹿教湯病院、三才山病院
- 輝山会記念病院
- 佐久総合病院
- 医療法人（社団）大和会 日下病院
- 大阪市立大学医学部附属病院
- 大阪労災病院
- 大阪府立急性期・総合医療センター
- 大阪市立総合医療センター
- 大阪発達総合療育センター
- 特定医療法人大道会 森之宮病院
- 天理よろづ相談所病院 白川分院
- 兵庫医科大学病院
- 関西リハビリテーション病院
- 関西労災病院
- 仁寿会 石川病院
- 和歌山県立医科大学附属病院
- 和歌山生協病院
- 川崎医科大学附属病院
- 岡山大学病院総合リハビリテーション部
- 岡山リハビリテーション病院
- 吉備高原医療リハビリテーションセンター
- 倉敷中央病院
- 笠岡第一病院
- 広島大学病院リハビリテーション科
- 広島市総合リハビリテーションセンター
- 医療法人信愛会 日比野病院
- 医療法人社団 長寿会
- 医療法人野並会 高知病院
- 医療法人財団尚温会 伊予病院
- 松山リハビリテーション病院
- 島根大学リハビリテーション部
- 鳥取大学医学部
- 産業医科大学
- 特定医療法人 順和 長尾病院
- 八女リハビリ病院
- 医療法人共和会小倉リハビリテーション病院
- 医療法人光心会諏訪の杜病院
- 鹿児島大学病院リハビリテーション部
- 鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンター

## 1. 脳性麻痺リハビリガイドライン委員会策定委員会

### 「脳性麻痺リハビリテーションガイドライン」

#### 出版進捗状況

2005年9月2日第1回委員会から以後リサーチクエスチョンのリストアップ、これをnominal group techniqueを用いて選定合意。大勢の協力委員とともに既存の文献を網羅的に収集、レベルづけによって勧告グレードをつけ、推奨文を作成してきました。昨年10月から1カ月間のパブリックコメント募集を終えて、以後は本年2月中旬著者校正、4月下旬索引、序文の作成、5月中旬「脳性麻痺リハビリテーションガイドライン」（監修：日本リハビリテーション医学会、発行：医学書院）として出版の予定です。（委員長 岡川 敏郎）

## 診療ガイドライン委員会

## 2. リハ連携パス策定委員会

### リハ連携パス策定委員会の今後

本委員会の使命は地域連携パスに関する診療報酬算定の適応疾患拡大を見据えて、各地域におけるリハ連携のあり方について分析・検討し提言・提案することです。2006年8月に第1回委員会が開催され、第一ステップとして「脳卒中リハビリテーション診療連携パス—基本と実践のポイント」の出版を目標に作業を進め、2007年6月に発刊することができました。2008年4月には脳卒中連携パスに診療報酬算定が新設され、全国各地で地域連携パスへの取り組みがさらに活発化していることから、今後は第二ステップとして脳卒中連携パスに関しての具体的な指針を早急に作成し、本学会の立場を積極的に示していく所存です。（委員長 辻 哲也）

## 北海道地方会だより

まず昨年10月19日に市民公開講座「メタボリックシンドロームと運動」を札幌コンベンションセンターで開催したことをご報告します。これは、1年に2カ所程度開催地が選定され、地元の地方会が中心となり開催しているものです。詳細は本号11頁の報告記事をご覧ください。

さて今後の北海道地方会の予定ですが、2009年3月7日午後専門医・認定臨床医生涯教育研修会を北海道大学学術交流会館で行います。3講演を予定しています。また、4月25日に学術集会および教育研修会を札幌医科大学で行います。一般演題の発表と教育講演を予定しております。いずれの会も詳細が決まり次第、北海道地方会ホームページ (<http://www.med.hokudai.ac.jp/~reha-w/jarmhok/index.html>) で発表しますのでご覧ください。北海道地方会では学会開催などの重要事項はメールマガジンでもお知らせします。12月17日にメールマガジンをお送りしておりますが、受け取られたでしょうか。このメールマガジンを受け取るためにはリハ医学会ホームページで会員用Webシステムへの登録が必要です。登録されますとメールマガジンの受け取り以外に単位取得状況の表示、会員名簿の閲覧、掲示板の利用などが可能になります。ぜひご利用ください。（代表幹事：生駒 一憲）

## 近畿地方会だより

第26回近畿地方会学術集会ならびに専門医・認定臨床医生涯教育研修会を、2009年2月28日（土）午後1時から開催いたします。奈良県内での地方会学術集会開催は2回目になりますが、今回は奈良県立医大の厳樞（いつかし）会館にて開催いたします。奈良県立医科大学リハ部 堀川博誠准教授と共に開催の用意を行っています。教育研修会では、荻田典生先生（神戸大学神経内科准教授）に、リハ診療でもしばしば経験される代謝性ミオパチーの病態とそのリハ上の注意点について、中馬孝容先生（滋賀県立成人病センターリハ科副部長）に、ボツリヌス毒素注射による痙縮およびジストニアの治療についてのご講演をお願いしています。学術集会では、皆様からの演題を募集しています。E-mailにてnarareha200902@yahoo.co.jpまでお送りください。演題締切は1月31日です。演題受付時必ず2、3日以内に返信いたしますので、万一返事がありません場合には電話連絡をお願いいたします（西大和リハビリテーション病院：森本 茂、Tel 0745-71-6688、Fax 0745-71-1111）。演題発表には、なるべく時間をかけて丁寧な討論ができればと考えていますので、皆様よろしくご報告いたします。少しでも多くの先生方のご参加を願っています。

（第26回学術集会会長：森本 茂）

## 北陸地方会だより

第25回北陸地方会を2009年3月28日にANAクラウンプラザホテル金沢にて開催します。これまでの会場と変わりますのでお間違えのないようお願いいたします。生涯教育研修会では、北陸で久しぶりに小児分野の講演を行います。講師のびわこ学園医療福祉センター草津施設長 口分田政夫先生は「人工呼吸器をつけて、ベビーカーを押すように颯爽と街にでたい」と願う母親に触れていらっしやいます。もう一人の講師の富山県高志リハビリテーション病院神経内科 井上雄吉先生は、高次脳機能障害に対する反復経頭蓋磁気刺激について2007年度の学会誌最優秀論文賞を受賞されています。病院の要職にありながらの原著論文にかかわるご講演となっております。

北陸地方会を長年牽引していただきました立野勝彦先生が金沢大学の定年退職に伴い、代表幹事も退任されることになりました。第25回北陸地方会終了後、同会場にて懇親会を開催し、ご功績に対して感謝の意を表する機会を設けたいと計画しております。会費制となっており、会員の皆様には出欠葉書を送付いたしますので、ご返信の程よろしくご報告いたします。今後の地方会の運営につきましては、当日の幹事会および総会にお諮りすることになります。4月からは新体制となる予定です。更なるご支援、ご協力をお願いします。（事務局幹事：染矢 富士子）

## 中部・東海地方会だより

中部・東海地方会では、第24回地方会学術集会と専門医・認定臨床医生涯教育研修会を2009年2月7日（土）に予定しています。研修会は清水克時先生（岐阜大学医学部整形外科教授）に「スポーツ選手の腰椎分離症」を、飛松好子先生（国立障害者リハビリテーションセンター病院第一機能回復訓練部部長・研究所補装具製作部長）に「脳血管障害片麻痺の装具療法」をご講演いただきます。ご参加のほど、よろしくご報告いたします。

2007年5月より中部・東海地方会のHPを開設しております。学会ならびに専門医・認定臨床医生涯教育研修会の詳細はHP (<http://www.fujita-hu.ac.jp/~rehabmed/chubutokai/index.html>) をご覧ください。

（代表幹事：才藤 栄一）

## 第46回

## 日本リハビリテーション医学会学術集会

リハビリテーション医学  
—夢と希望への挑戦—

第46回 学術集会会長 木村 彰男  
運営幹事 長谷 公隆

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たり、学会員の皆様のご健勝を祈念申し上げますとともに、本年6月4日（木）、5日（金）、6日（土）に静岡で開催を予定しております学術集会のご案内をさせていただきます。会場となるグランシップは、静岡駅からJRで1駅の東静岡駅前であり、日本の象徴・富士山を望みながら、静岡県の文化振興を担う「大なる船」として機能している文化施設でございます。昨年来の先行き不透明な社会・経済情勢の最中、リハ医学に培われてきている「夢と希望」に挑戦するという大きなテーマを掲げさせていただき、学会としての社会貢献を改めて探究できるような学術集会となるよう、鋭意、準備を進めております。

いくつかの企画をご紹介申し上げますと、宇宙飛行士の向井千秋先生からいただく特別講演の内容に絡めた「宇宙医学とリハ医学」に関するセッションや、“Brain Machine Interface” がリハ医学にもたらす可能性を探るセッションを、先端シンポジウムとして予定しています。また、機能を診断し、それに基づいて治療するリハ医療に必須の手段である電気生理学を実際にどう活用できるのかを、Honorary Memberである木村淳教授にご講演いただいたうえで、Corresponding MemberであるDr. Robinsonをはじめ、米



学会会場 'GRANSHIP'

国、アジアで活躍されているリハ専門医が挑戦している臨床電気生理学をご披露いただく特別教育セッションを企画中です。その他、脳卒中リハの展開、包括的リハにおけるリハ医の役割、地域リハ医療のアウトカム、リハ医育成のためのシステムなどのシンポジウム、パネルディスカッション等を鋭意企画中でございます。学術集会ホームページ (<http://www.congre.co.jp/jarm2009/>) には、最新のプログラム内容を随時、掲載・更新いたしますので、是非ともご覧ください。

一般演題は例年通りオンライン登録で受け付けておりますが、**締切りを1月28日(水)まで延長**いたしました。締切日間際にはアクセスが集中してご迷惑をお掛けすることもあるかと思っておりますので、演題登録を済ましておられない先生は、余裕をもって登録をいただけますようお願いいたします。

静岡は、豊かな自然の中で海の幸・山の幸に恵まれた温暖な観光名所でもございます。皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

## 国際委員会

平成21年度  
海外研修助成募集の延長について

平成21年度のリハビリテーション医海外研修助成の募集が行われております。しかし、平成20年11月末日時点で、まだ一件も応募がございません。そこで、国際委員会で協議の結果、緊急に締切りを**平成21年1月31日(必着)まで延長**することといたしました。日本リハビリテーション医学会のホームページの「リハ医学会とは?」「もっと詳しく」から、「委員会」そして、「国際委員会」と進みますと応募要項が記載されており、申込書式がダウンロード可能となっております。是非、ご参照の上、多数の先生にご応募いただけますようお願い申し上げます。

(委員長 志波 直人)



会場屋上から望む富士山



第3回

リハビリテーション科専門医会学術集会報告

専門医会幹事 佐伯 寛

2008年12月6日と7日、都久志会館(福岡市)で第3回リハ科専門医会学術集会が行われました。前日の暖かさとは一転、寒波で期間中の2日間は雪の舞う厳しい寒さとなりました。悪天候にかかわらず、総参加者数は535名(関連職種他72名含む)と予想をはるかに超える盛会で、両日とも会場は熱気に包まれ、活発な討論が行われました。

1日目、代表世話人である佐伯寛ならびに池田聡両幹事の挨拶でスタートしました。

先ず、総会が行われ(議長:緒方敦子先生、副議長:越智文雄先生)、直ちに専門医会幹事(候補者)選出が行われ、10名の幹事(候補者)が選出されました。幹事会からは、システム、リハ医育成アクションプラン策定WGならびにデータマネジメントWGの状況について報告があり、正門由久幹事長がこの2年間の専門医会活動を総括されました。今後の専門医会の在り方や役割などについて会場との意見交換がなされましたが、やや意見が少なかつた印象があります。第5回(2010年)の専門医会学術集会の代表世話人には、菊地尚久幹事が選出され、第4回専門医会学術集会の進捗状況については、朝貝芳美代表世話人より説明がありました(会期:2009年10月16日(金)~18日(日)の3日間、会場:長野県諏訪市・下諏訪文化センター)。また、第46回本医学会学術集会時の専門医会企画として、「専門医として、リハ処方はどうするべきなのか(学術集会2日目15:30~17:30予定)」を開催、座長・演者を公募することが正門幹事長より説明があり、最後に、辻哲也先生より、富士山を背景にしたパワーポイントで第46回学術集会の案内がありました。

総会の後、シンポジウム「Brain scienceのトピックス」(座長:出江紳一先生)が行われました。池田先生(脳血栓片麻痺

モデル:機能回復と神経栄養因子)、宮井一郎先生(脳機能イメージング:リハ臨床への応用)、橋本圭司先生(外傷性脳損傷:認知リハの進歩)が、ご自身の研究結果も含めて重要な知見を講演されました。最新の研究結果や動向に触れると共に、今後実地臨床に

どう結び付けて行くのか、参加者も含めて活発な討論が行われました。

その後、牧野健一郎先生により「カーボン製下肢装具の臨床応用」(座長:朝貝先生)、小山哲男先生により「脳卒中の機能予後予測と地域連携パス」(座長:菊地先生)と題した教育講演が行われました。

特別企画「リハ医育成アクションプラン(AP)」が、上月正博担当理事の司会で行われました。上月理事の概要説明の後、APワーキンググループのメンバーにより、各部門(専門医会、教育委員会、認定委員会、試験問題作成委員会、広報委員会、地方連絡協議会)より説明があり、会場との討論が実施されました。専門医の質を担保しながらどうやって数を増やすか、認定臨床医の制度とどうリンクさせるか、学生へのアプローチはどうするのかなど、今後、議論を経て、6月の本医学会学術集会総会で決定される見込みです。

その後、会場隣りの福岡ガーデンパレスで意見交換会が開催されました。里宇明元理事長の挨拶のあと、正門幹事長により乾杯の発声が行われました。恒例の各新専門医から挨拶があり、最後に上月担当理事より閉会の挨拶があり、1日目が終了しました。二次会・三次会と懇親の場が続いた先生もいらっしゃったようです。



総会風景(1日目)

ディスカッションが行われました。和田太先生(研究の企画・立案)、辻先生(研究体制)、宮越浩一先生(データマネジメント・統計処理)、加賀谷齊先生(論文作成のポイント)の4名の先生が講演され、研究の進め方や国際英文誌への投稿のポイントなどについて討論が行われました。次に千坂洋巳先生により「嚥下障害と服薬—嚥下したカプセルが胃に到達するまでの動態を中心に—」(座長:園田茂先生)と題して教育講演が行われ、最後に、次回学術集会の案内を兼ね朝貝先生が閉会のご挨拶をされ、学術集会は終了しました。

午後からは同会場会議室で実技セミナー「高次脳機能評価法の実際」が開催されました。これは専門医会による研修事業で、若手専門医のスキルアップを目指して行われています(定員が10名と少なく、受付開始日に定員に達する状況であり、受講できなかった先生方には大変申し訳ありません)。今回は、産業医大と鹿児島大学の高次脳機能研究班(岡崎哲也先生、緒方敦子先生ほか)が共同で企画・運営を行いました(専門医会活動を通じた連携の新しい形になるかもしれません)。概要の説明のあと、各高次脳評価法をステーションに分け、参加者がそれぞれのステーションを回る形で実際に評価法を体験していただき実習を終えました。

2日目は「リハ科専門医と研究」(座長:安保雅博先生、生駒一憲先生)と題しパネル

今回の学術集会は専門医会が名実ともに発展していることを伺わせるものでした。専門医会の活動が起爆剤となり、更なるリハ医学の発展とよりよいリハ医療の構築につながることを願っています。



パネルディスカッション風景(2日目)

# リハ医 への 期待

## 第2回

# 脊髄損傷者のリハビリテーション

NPO法人  
日本せきぎ基金  
理事長

大濱 眞

### ●基金の設立

私たちが、脊髄損傷者のQOLの向上と脊髄再生研究の促進のために、重度の当事者を中心に設立準備会の活動を開始したのは1996年です。1990年代には、脊髄再生の動物レベルの研究において、機能回復の事例が各国から報告され始めました。英国では脊損者がファンドを集め自ら研究資金を助成していることを知り、日本でもこのような活動のできる財団の設立を、と仲間と呼びかけて活動が始まりました。

1999年にはNPO法人となり、設立記念集会には映画でスーパーマンを演じその後脊髄を損傷したクリストファー・リーブ氏からメッセージが寄せられました。「決してあきらめないでください。……もはや脊髄の再生は夢ではありません」と。

### ●リハビリテーションのゴールとは

脊髄損傷者の自己回復の究極のイメージは、自らの力で立ち上がり歩き始めること——“walk again”でしょう。

脊髄損傷後の機能回復は自然的回復とリハとの相乗作用として、受傷後6カ月頃までに最大の回復がみられ、個人差は大きいものの回復傾向は2年後頃まで続いてプラトーに至る、ともいわれています。

多くの脊髄損傷者は機能回復への強い期待を抱いていますが、リハのゴールに関してはアンビバレンツな状況におかれることも少なくありません。頸髄損傷者の入院期間が1～2年に及んでいた私の受傷した頃とは違い、入院期間の短縮化の方向はとどまることなく、6～8カ月程度で自宅生活が開始されることが普通になってきています。脊髄損傷者が社会復帰のスキルを身につける訓練期間としては、短すぎるように感じます。

急性期から回復期までの制度化されたリハ期間のなかで、アグレッシブなりハで少しでも身体能力を向上したいと考える当事者もおります。限られた期間内にはわずかな身体能力の向上のみに精力を注ぐのではなく、ADL訓練による生活能力の向上にも時間を割くべきではないか、という意見は正論でしょう。しかし、少しでも身体的な機能回復を果たしたい当事者には、意にそわないリハプログラムと受け取られることも時にはあるかもしれません。

### ●リハ医への期待

脊髄損傷者の残存機能や回復度は一人ひとり異なり、障害の受容の時期や、社会復帰していく当事者の直面する世界もまた、実にさまざまです。これらは私たち当事者があらためて言

うまでもないことでしょう。

こうありたい自分と現実の自分との落差というものを、当事者は濃淡の差こそあれ抱えています。

そしてリハ医もまた、日々そうした当事者の思いに触れながら、本人の最善の利益を考えてプログラムを処方されているものと思います。それでもあえて、リハを終えて患者はどのような世界に還っていくのか——そのイマジネーションをリハチームや患者・家族とも共有し、実践していただくことが患者の最善の利益につながる途だと思われまます。

脊損リハにおいて解決されていないと感じる問題として、呼吸リハがあります。在宅・社会復帰の際のQOLの向上のために、会話も可能な非侵襲的呼吸療法がもっと普及し、セラピストが在宅指導を行えるような教育訓練を、ぜひ持続的に展開していただきたいと思ひます。

### ●「その後」の世界

脊髄損傷では合併症の予防が大きな課題としてあり、そのためには当事者には現在の残存機能を維持することが求められています。日本せきぎ基金では慢性期のQOLの向上をめざし、里宇明元慶應義塾大学教授らのご協力を得て在宅リハDVD『ステップ by ステップ』を2008年に6,000枚作成して無償配布しました〔95分。頒布希望者は基金事務局まで請求ください〕。

将来、脊髄損傷者が再生医療の進歩を享受するためには、生活習慣病の予防だけでなく、関節の硬化や筋肉の痙縮の予防、骨密度の維持などがかせません。こうした在宅リハメニューの作成や地域リハの実現のために、リハ医の皆様がリーダーシップを発揮されることを期待しています。

脊髄再生医療により一定の機能回復を果たした暁にも、リハとの相乗効果が欠かせません。

また脊髄損傷の受傷のピークが青壮年期と60歳前後の2峰型から60歳前後の1峰型に移行する傾向が顕著になっている現在、中心性脊髄損傷に対するリハへの取り組みも、新たな課題に挙げられてきています。

疾病構造の変化とともに、リハ医に期待される世界は広がるばかりともいえます。リハ医学の新たな地平を切り拓き、当事者の「生活満足度」のさらなる向上に寄与していただきたいと思ひます。



## 市民公開講座（札幌） 「メタボリックシンドロームと運動」

日本リハ医学会の主催で2008年10月19日、市民公開講座「メタボリックシンドロームと運動」を、北海道、札幌市、北海道医師会、札幌市医師会、北海道体育協会、北海道新聞社の後援を受け、札幌コンベンションセンターにて開催いた



しました。企画・運営は日本リハ医学会北海道地方会が担当し、「メタボリックシンドロームと運動」をテーマに2部構成で、筒井裕之先生（北大循環器内科教授）による基調講演と遠山晴一（北大病院リハ部診療教授）、石井好二郎先生（同志社大学スポーツ健康科学部教授）、中川喜直先生（小樽医科大学教授）、武藤芳照先生（東大教育学研究科教授）の4名によるシンポジウムが行われ、約130名の一般市民の方が参加されました。

はじめに北海道地方会代表幹事 生駒一憲先生（北大リハ科教授）の開催挨拶に引き続き、筒井先生より、「メタボリックシンドロームはなぜ危ないのか？」と題し、内臓脂肪蓄積により脂肪細胞から分泌されるアディポサイトカインが高脂血症、糖尿病、高血圧、動脈硬化に関与していること、メタボリックシンドロームの治療における運動療法と食事療法の重要性を詳しく丁寧に講演していただきました。休憩をはさみ、シンポジウム「運動でメタボリックシンドロームを予防しよう」が行われました。最初に遠山が「エクササイズのかたと注意点」に関し事例を挙げて説明し、次に石井先生から「運動不足な人ほど“歩き”は健康を与えてくれる」、中川先生から「ストックウォーキングと健康」というタイトルでそれぞれを具体的に解説していただき、最後に武藤先生が「健康づくりのための水中運動、水泳のかたと注意」に関してユーモアを交え、わかりやすく講演していただきました。

メタボリックシンドロームに対する運動療法の効用をいろいろな切り口から一般市民の方に啓蒙（啓発？）ができた本公開講座は、参加者に好評であり、有意義なものでありました。また、会場からの質問が終わった後も、多くの参加者が会場に残り、講師の方々との間でいろいろな意見交換がされました。（運営委員長 遠山 晴一）

## 第38回日本臨床神経生理学会

2008年11月12日～14日、第38回日本臨床神経生理学会学術大会（大会長：東京医科歯科大学整形外科学分野 四宮謙一教授、副大会長：東京医科歯科大学生命機能情報解析学分野 松浦雅人教授）が、「臨床神経生理学の限りなき可能性をさぐる」というテーマのもと、伝統あるプレコングレス第45回日本臨床神経生理学会・技術講習会とともに神戸国際会議場にて開催された。

会長講演をはじめ、特別講演2題、教育講演24題、教育セミナー：医師向け6題、技師向け5題、問題症例の検討ワークショップ、医師・技師のためのハンズオンセミナーと豊富な教育的演題があり、日本てんかん学会、日本小児神経学会、日本睡眠学会との合同シンポジウムも組まれていた

シンポジウムの主な内容は、脊髄モニタリング、脊髄・末梢神経の神経機能診断、痛みとかゆみの神経生理学、睡眠時無呼吸症候群・小児の睡眠などの睡眠分野の研究、精神疾患の脳機能画像、自閉症・心の発達・軽度認知障害・側頭葉てんかんなどの精神科領域、光トポグラフィー、不随意運動の神経生理、事象関連電位、糖尿病末梢神経障害・神経筋接合部の最近の進歩、磁気刺激・脳深部刺激の臨床応用、視覚機能・聴覚機能の評価など多岐にわたり、充実した内容であった。

参加者は学術大会：医師1,027名、学生・コメディカル286名、技術講習会357名と盛会であった。

優秀演題賞は東京大学 花島律子先生「不随意運動の機序の違いによる大脳皮質内抑制機構の差の検出」、和歌山県立医科大学 中川幸洋先生「術中脊髄機能モニタリングと今後の課題」、広南病院 岩崎真樹先生「側頭葉てんかんの外科治療におけるMEG spike mappingの役割」（以上シンポジウム）、県立広島病院 井上健先生「機械的刺激による人間の脳皮質体性感覚野の反応」（口演）が受賞された。

臨床神経生理とは診断と治療に繋がる臨床研究であり、リハ分野との関連のある内容も多く、画像と電気生理のコラボレーションなどとても興味深く拝聴した。

（兵庫医療大学リハビリテーション学部 野崎 園子）

## 第43回日本脊髄障害医学会

第43回日本脊髄障害医学会学術集会在、2008年11月6日～7日、札幌のかでる2・7（北海道立道民活動センター）で開催されました。本学会は、リハ科医のみならず、整形外科、脳外科、泌尿器科、内科医師の他PT、OT、心理士らも参加する非常に学際的な学会であることが特徴です。本学術集會会長を務められた北海道大学脳外科の岩崎喜信先生は冒頭会長挨拶で、例年以上の演題応募があり、急遽会場を増やして対応されたと述べられておりましたが、実際にどの会場でも白熱した議論が繰り広げられていました。以下、著者の見聞した内容に基づき報告致します。

本学術集會主題の1つである脊髄機能再建・再生・臨床応用に関するシンポジウム・基礎研究一般演題などからは、幹細胞移植治療をはじめとする最新のホットな知見を吸収することができました。その中でも述べられていたこととして、脊髄再生は多領域にわたる集学的な治療であること、脊髄再生を有効な治療法に確立するには細胞・組織学的な再建と並行して、確かな根拠に基づくリハ手法の確立が重要であることなども強調されていました。

脊髄損傷治療に関する現状と問題点に関するセッションでは、現在の脊損医療の抱える問題点の指摘があり、特に脊損のケア負担を考えた診療報酬上の改善の必要性や、昨今の医療情勢に即してのセンター配置の構想・医療機関同士のネットワーク拡充の必要性などが論議されていました。

会場周囲の沿道の紅葉に注ぐ木漏れ日が美しく、学会初日の懇親会では秋の北海道の味覚も存分に満喫させていただくことができ、大変充実した2日間でした。

（神奈川リハビリテーション病院リハビリテーション科 高倉 朋和）

## 第24回日本義肢装具学会

第24回日本義肢装具学会は、2008年11月29～30日、昭和大学リハビリテーション科 水間正澄会長のもと、東京都大田区にて開催された。

テーマは「くらしと義肢装具」であり、「くらし」を支える医療であるリハの立場から見つめなおす学会となっており、「役立つ」がキーワードとなって、各講演で取り上げられていた。

基調講演は米本恭三先生による、生活を支える装具として、ポリオ後遺症の装具の処方工夫を、多くの症例を挙げ紹介していた。

プログラム企画が面白かったのはもちろんのこと、静岡・熊本・島根と地方都市での開催が続き、久しぶりの首都圏開催のためか、参加者が多く、どの会場に行っても立ち見であふれるほどの盛況振りであった。また、恒例のマニファクチャラーズワークショップやランチョンセミナーがなくなり、企業色より学術色が強くなったという印象を受けた。

次回は2009年10月31日、11月1日（土・日）神戸市で開催される予定である。

（横須賀共済病院 野々垣 学）

2007 年度日本リハビリテーション医学会外国人リハビリテーション医交流助成による日本訪問が終了したので、下記の通り報告いたします。

氏名：Huyen Thi Thanh Nguyen, MD (34歳、女性)  
 所属：Department of Rehabilitation Medicine, Hanoi Medical University, Hanoi, Vietnam (ハノイ、ベトナム)  
 期間：2007年10月27日～11月1日  
 訪問先：熊本県こども総合療育センター、熊本リハビリテーション病院  
 発表演題：The Vietnam Rehabilitation Medicine



福岡国際空港に着き、井手睦先生の出迎えを受けた。最初に訪れた病院は熊本県こども総合療育センターであった。こ

氏名：Carmen M. Terzic, MD, PhD (41歳、女性)  
 所属：Department of Physical Medicine and Rehabilitation, Mayo Clinic (ミネソタ、米国)  
 期間：2008年3月9日～15日  
 訪問先：九州厚生年金病院、大牟田吉野病院、久留米大学病院リハビリテーション部、帝京大学福岡医療技術学部理学療法学科、慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室、東京湾岸リハビリテーション病院  
 発表演題：1. Cardiac Rehabilitation at the Mayo Clinic  
 2. Exercise prescription and Cardiac Rehabilitation  
 3. Prevalence of Musculoskeletal conditions in the elderly with coronary artery disease and its impact on their ability to participate in cardiac rehabilitation program  
 4. Cardiovascular Rehabilitation



九州に到着し、志波直人教授の出迎えを受けた。まず最初には九州厚生年金病院で折口秀樹先生と心臓リハの最高水準

どもを対象としたリハ病院であり、センター長の坂本先生や他のスタッフとお会いし、案内してもらいながらいろいろな興味深いことを教えていただき大いに刺激になった。翌日は熊本リハビリテーション病院を訪問した。ここでも先生方、リハスタッフの皆さんから最大限の温かい歓迎ともてなしを受けた。私がここで見たもの聞いたものいずれもがすべて印象深いことばかりで、非常に興味深かった。さまざまなタイプの障害者に提供されているリハ内容やサービスについて多くを学んだ。この病院で私は“The Vietnam Rehabilitation Medicine”について発表した。病院長の古閑先生や他の先生方からの優れた通訳の手助けもあり、皆さんと十分に交流することができ多くのことを教えていただいた。最終日には熊本市内のいくつかの素敵な場所に案内していただき、素晴らしい日本での滞在を最後まで満喫した。

この海外研修は私にとってとても有意義な機会になった。母国ベトナムに帰ってからは、まだまだ発展途上にあるベトナムリハ医学のために、今後、もっと多くのことをやらなければいけないことを実感した。このような素晴らしい機会を私に与えていただいた日本リハ医学会にあらためて感謝をいたします。また、この海外研修が私にとって本当にかげがえのないものになったのは聖マリア病院の井手睦先生の全面的なお世話による賜物であったことをこの場を借りて深謝いたします。

のプログラムについて意見交換をした。なかでも運動と遠隔測定装置には驚き、メイヨー・クリニックでも是非試してみたい方法であった。ここで「メイヨー・クリニックの心臓リハ」のタイトルで発表し、医局スタッフの方々と建設的な討論ができた。次に大牟田吉野病院を訪れた。ここでは戦後最大級の炭鉱爆発による低酸素脳症患者のリハを見せていただいた。病院と政府の支援体制などの意見交換ができ、貴重な経験をさせていただいた。その後帝京大学福岡医療技術学部を訪れ、濱田孝行教授らと会い、コロラド州立大学でのPT、OTプログラムについて話し合い、学生に「運動処方と心臓リハ」について発表し、学生も交えて討論した。次に久留米大学リハ部で「メイヨー・クリニックの心臓リハプログラム」を発表し、循環器内科の今泉勉教授とトピックスについて話し合った。翌日には東京に移動し慶應大学リハ医学教室の里宇明元教授と会った。多くのリハ科専門医を養成し、広いリハ領域で、基礎的研究から臨床的研究までの幅広い活動や先進的な研究を見せてもらった。「冠動脈疾患高齢者における運動器疾患有病率と心臓リハプログラム参加能力へのその影響」を発表した。後の討議でわれわれのプログラムを改善する優れた質問と示唆をいただいた。最後に東京湾岸リハ病院を訪れた。近藤国嗣病院長の案内で現代的な施設を見せてもらい、最新技術による素晴らしいリハサービスに感動した。ここでも「心臓リハ」を病院スタッフに発表した。最終日には東京散策と美味しい食事をいただき日本の素晴らしさを楽しませていただいた。

今回の施設訪問はいろいろなところで、多くのことを学ばせてもらった。是非メイヨー・クリニックでも取り入れて発展させてゆきたい。またいずれの施設でも多くの方たちから温かくて親切な対応をしていただき、日本の良さを実感した。今後もお互いの施設が臨床に研究に交流を深めてゆくことができるよい機会になることを期待しています。

東京湾岸リハビリテーション病院は、回復期リハ病床数が不足している首都圏・東京湾岸地域において、リハ医主導の良質な回復期リハ医療を提供することを目的として2007年3月に開院しました。病床数は160床、全病棟が回復期リハ病棟です。現在、常勤医は7名（リハ科専門医4名、神経内科専門医2名、全員リハ医学会員）で、約80名のリハスタッフが勤務しております。

開設時の基本コンセプトは医療・教育・研究の充実を3本柱としており、医療面においてはリハ医をリーダーとしたチーム医療を365日実施し、チームカンファ・全体カンファを相互して行うことにより質の均一化を目指しております。構造面でもリハセンター以外に各病棟にもリハ室を配置しており、症例に応じた場所でのリハ提供や、看護師参加ができるようにしております。また、リハ医管理のもと、隣接する同一法人の谷津保健病院での急性期リハ、当院に附属するデイケアでの維持期リハも提供しており、

切れ目のないリハ医療の提供に努めています。

教育面は、医局内での週1回の抄読・研究連絡会に加えて、全職種向け毎週の勉強会や、外部からの講演会などを施行することにより、全職員の知識向上を図っております。また、年間入院患者は481例（平均67.5歳、15～98歳）で、疾患内訳は、脳血管障害73%、骨関節疾患10%、廃用症候群7%、頭部外傷4%、脊椎・脊髄疾患3%、神経・筋疾患2%、切断1%と幅広い年齢・疾患を診療しており、専門医取得に向け豊富な臨床経験を積むことができる環境です。

研究面ではリハ研究室があり、脳波連動型光トポグラフィー、磁気刺激装置、呼気ガス分析装置、免荷装置・床反力計付三次元動作解析装置、ストレングスエルゴなど本邦有数の機器を有しております。当研究室の特徴は、職員以外の利用が可能な開かれた研究室「オープンラボ」体制をとっていることです。当院の研究方針に同意いただけましたら、客員



東京湾岸リハビリテーション病院

住所：〒275-0026 千葉県習志野市谷津 4-1-1  
TEL 047-453-9000 FAX 047-453-9002  
<http://www.wanreha.net/>

研究員として当院での研究が可能となります。現在もいくつかの機関の研究者や大学院生が研究中です。

生まれたての病院ではありますが、これから、少しでもリハ医療の発展に貢献できるよう医局員全員で努力していきたいと思います。なお、当院にてリハ医を目指されたい方や研究員を希望される方は上記にご連絡ください。（近藤 国嗣）

氏名：Nazirah Hasnan, MD (39歳、女性)  
所属：Medical Rehabilitation Unit, University Malaya Medical Centre (クアラルンプール、マレーシア)  
期間：2008年3月31日～4月5日  
訪問先：藤田保健衛生大学リハビリテーション医学教室、藤田保健衛生大学七栗サナトリウム  
発表演題：Rehabilitation Medicine: A Developing Specialty in a Developing Country



名古屋に着いて藤田保健衛生大学リハ教室を訪れた。教室が嚥下障害に積極的に取り組み、米国ジョンス・ホプキンス大学との連携施設であることを知った。嚥下障害チームが多くの専門家で構成され、歯科医も参加していることに驚いた。嚥下造影検査（VF）を見学し、その後の症例検討会にも参加させていただいた。翌日は才藤栄一教授に大学を案内していただき、その後嚥下内視鏡検査（VE）や回診にも立

ち会った。チームスタッフは非常に熱心で、皆さんから親切に丁寧な説明を受けた。教授から現在進行中の多くの研究（WPAL、HOW、Tomy、FIT、COSPIREなど）について説明を受けた。いずれも国際的な評価を受けている臨床・基礎研究でありそのレベルの高さに感心した。ここで「リハ医学：発展途上国における発展する専門分野」を発表した。マレーシアではリハ医学の教育システムが1997年に始まり2001年に最初の卒業生を出した。現在、2500万人の人口でリハ医師はまだ全国で25名しかいない。

次の日には藤田保健衛生大学七栗サナトリウムを訪れた。園田茂教授からFIT（Full-time Integrated Treatment）programについて学んだ。研究と臨床がうまく連携して積極的に進められていた。施設は治療エリアと生活・ダイニングエリアが病棟に近接し、広い歩行訓練用通路でつながり優れた配置だと思った。研究室ではWPAL（Wearable Power Assist Locomotor System）、APS-AFOなどの新しい試みも紹介してもらった。近い将来私の大学の施設に訪問していただき嚥下障害についての合同シンポジウムを開く可能性についても話し合った。最終日には満開の桜で賑わう名古屋の観光地も案内していただき、東京への帰途で堂々とした素晴らしい富士山を眺めることもできた。

今回の訪問では単にアカデミックな専門分野の話題だけではなく、日本の文化や教養、親切な皆さんとお会いして多くのことを学んだ。将来性のある新しいリハについて教えていただいた才藤栄一教授をはじめ、終始私をVIP並みに親切に面倒見ていただいた馬場尊先生、すべてのリハスタッフおよび関係者の皆さんに本当に感謝します。また最後にこの機会を与えていただいた日本リハ医学会にもあらためて感謝します。

（交流印象記翻訳：国際委員会 長谷 斉）

本医学会の会員の皆様には、日頃より事務局に対しご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

事務局から近況のお知らせをいたします。

1. 事務局職員の採用：2007年7月に野村伸子さんが採用され、主に会計事務及び委員会業務を担当、また、2008年10月に荒川杏佳さんが採用され、主に委員会業務を担当しております。お二人とも採用前の経験を活かして、本医学会の事務に積極的に従事していただいております。
2. 事務局の移転：2007年6月東京都板橋区小茂根から現在の「東京都新宿区神楽坂6丁目32番3号」に移転してから早1年半となりました。小茂根は住宅街で、夜遅くまで事務局員が仕事をして帰るときに暗がりが多く少し怖い感じがしましたが、現在の新宿区神楽坂は昔ながらの街並み、また、当時を忍ばせる料亭が軒を連ねている場所があったり、昼夜のない感じがいたします。何より地下鉄東西線「神楽坂」駅1番出口を出て30秒のところには事務局があることは魅力的です。是非一度お立ち寄りください。
3. 役員の交替：2008年6月の総会では新役員理事16名、監事2名が選出されました。現在里宇明元新理事長の下での7つのアクションプランも着実に進められており、職員一丸となりサポートさせていただきます。
4. ログインのお願い：2007年1月の理事会でシステム委員会を設置し、2007年5月の理事会でシステムの導入の具体化が承認されたことを受け、システム委員会等の努力により、2008年7月より会員用Webの運用が開始されております。会員の皆様には是非ログインをしていただき生涯教育研修単位確認または、住所変更等に大いにご活用くださいますようお願いいたします。

\*最後に、学会誌上でもお願いしておりますが、勤務先、住所変更等の諸届を速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。

(事務局長 白井 幹郎)

夜寝る前に米国にe-mailを送信しておく、朝起きる頃には返事が来ている。無料のソフトウェアで、ローマでも平壤でも、人工衛星の映像で世界中の街並みを俯瞰することさえできる。自分の住む街を眺めて、駐車場の自分の車を確認することも可能だ。科学技術の発展で地球は狭くなり、世界同時不況、さらにはパンデミックと、私たちはグローバルという言葉が否が応でも日々意識しながら生活している。

一方、新聞紙面では連日、周産期、医師偏在、薬害、治験など、医療関連のキーワードが並ぶ。過去にこれほど医療への関心が多方面にわたり社会的に高まったことはなかった。リハという言葉もそのキーワードの一つであり、リハに対する関心は高く、期待は大きい。国内に止まらず、日本リハ医学会のさらなる国際的な活動と発展が望まれている。

このような中、日本リハ医学会では、リハ医育成アクションプラン策定ワーキンググループを立ち上げ、前向きな、熱い議論が繰り返されている。去る12月5日、福岡で開催された専門医会で、その内容が報告された。これを受け、今回の特集として、ワーキンググループを代表して上月常任理事からご寄稿いただくこととなった。今後のリハ医療を担うリハ医育成に関するものであり、会員に直接関係のある興味深い内容である。

(志波 直人)

# 臨床歩行計測入門



ISBN978-4-263-21324-7

## ■臨床歩行分析研究会 監修

江原義弘 (新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科)

山本澄子 (国際医療福祉大学大学院福祉援助工学分野) 編集

■B5判 240頁 定価6,510円 (本体6,200円 税5%)

最新刊

## ■本書の主な特徴

- 歩行分析の概要から計測の実際までをわかりやすく解説した入門書。最適な計測器の選定から適切な計測法を理解するために、現在歩行分析で使用されているほぼ全ての計測器について取り上げ、何が測れるか、どのように計測するか、それぞれの特徴と正しい使い方をまとめて、自分で計測できるまでのノウハウをわかりやすく解説。
- 各章ごとに、臨床現場での活用を考慮しながら、各計測器の臨床応用について紹介。特に、初学者には難解と思われる物理や数学的概念を理解するための記述、重要用語解説は巻末付録に、また、工学的トピックスはコラムとして収載。
- リハビリテーション医、理学療法士、義肢装具士などの臨床応用に好適な1冊として推奨。

## ■本書の主要目次

### 歩行分析概説

ストップウォッチによる歩行計測

フットスイッチによる歩行計測

電気角度計による歩行計測

ビデオカメラとVTRによる歩行計測

加速度計による歩行計測

ジャイロセンサーによる歩行計測

圧力センサーによる歩行計測

床反力計による歩行計測

筋電計による歩行計測

呼気ガス分析装置による歩行計測

大規模な歩行計測システムによる歩行計測

装具の開発に歩行分析を活用した事例

臨床指向的トレッドミル歩行分析

脳性麻痺患者の歩行分析

付録1 統計・微分・積分・時間正規化

付録2 特殊な計算の例

付録3 用語集



医歯薬出版株式会社 / 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

TEL.03-5395-7610

FAX.03-5395-7611

<http://www.ishiyaku.co.jp/>

2008年12月作成 TP



骨粗鬆症治療剤・骨ページェット病治療剤

# ベネット錠 17.5mg

リセドロン酸ナトリウム水和物錠

薬価基準:収載

創薬・指定医薬品・処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



製造販売元  
**武田薬品工業株式会社**  
 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号  
<http://www.takeda.co.jp/>

総代理  
**Wyeth** **ワイス株式会社**  
 〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号  
<http://www.wyeth.jp/>

(0807)

新鮮で、実用的なテーマで好評のシリーズ、全15冊!!

## リハビリテーションMOOK

編集主幹 千野直一(慶應義塾大学名誉教授) 安藤徳彦(前横浜市立大学教授)

### ①リハビリテーション診断・評価

240頁 156図 原色16図 定価5,565円(本体5,300円+税5%)

### ②脳卒中のリハビリテーション

220頁 155図 原色3図 定価5,565円(本体5,300円+税5%)

### ③介護保険とリハビリテーション

232頁 84図 定価5,565円(本体5,300円+税5%)

### ④高次脳機能障害とリハビリテーション

184頁 43図 定価5,250円(本体5,000円+税5%)

### ⑤運動療法・物理療法・作業療法

210頁 98図 定価5,565円(本体5,300円+税5%)

### ⑥骨関節疾患のリハビリテーション

258頁 154図 定価5,775円(本体5,500円+税5%)

### ⑦義肢装具とリハビリテーション

208頁 171図 定価5,565円(本体5,300円+税5%)

### ⑧小児のリハビリテーション

260頁 152図 定価5,985円(本体5,700円+税5%)

編集 大橋正洋

(神奈川リハビリテーション病院部長)

— 木村彰男 —

(慶應義塾大学教授)

— 蜂須賀研二 —

(産業医科大学教授)

### ⑨ADL・IADL・QOL

216頁 146図 定価5,565円(本体5,300円+税5%)

### ⑩神経疾患とリハビリテーション

266頁 134図 原色13図 定価6,300円(本体6,000円+税5%)

### ⑪脊髄損傷のリハビリテーション

242頁 140図 定価6,930円(本体6,600円+税5%)

### ⑫言語障害・摂食嚥下障害とリハビリテーション

176頁 106図 定価6,510円(本体6,200円+税5%)

### ⑬高齢者のリハビリテーション

236頁 103図 定価6,930円(本体6,600円+税5%)

### ⑭内部障害のリハビリテーション

160頁 34図 定価6,300円(本体6,000円+税5%)

### ⑮リハビリテーション工学と福祉機器

186頁 147図 原色32図 定価6,930円(本体6,600円+税5%)

## 現代リハビリテーション医学 改訂第3版

2009年初春 上梓予定

編集 千野直一(医療法人社団永生会 永生病院 名誉院長/慶應義塾大学名誉教授) ●本書は、リハビリテーション医学の代表的テキスト、バイブルとして高評価をおいている。●この最新3版では、リハビリ医学の進歩およびこれらの社会情勢の変化を考慮して内容を見直し、新しい項目を増やし、且つ医学生、看護師・PT・OT・STやコメディカル(医療・福祉職)の学生にも使いやすいように、2色刷りにして、デザインを刷新した。

**金原出版**

〒113-8687 東京都文京区湯島2-31-14 電話03-3811-7184(営業部直通) FAX 03-3813-0288  
 振替00120-4-151494 ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

# お知らせ

詳細は <http://www.soc.nii.ac.jp/jarm/>  
(開催日、会場、主催責任者、連絡先)

**第46回学術集会**：6月4日(木)～6日(土)、  
静岡県コンベンションアーツセンター グラン  
シップ、テーマ：**リハビリテーション医  
学—夢と希望への挑戦—**、会長：木村彰男  
(慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセン  
ター)、運営幹事：長谷公隆(慶應義塾大  
学リハ医学教室)、Tel 03-5363-3833、Fax  
03-3225-6014、E-mail: jarm2009@ktrc.  
med.keio.ac.jp、[http://www.congre.  
co.jp/jarm2009/](http://www.congre.co.jp/jarm2009/)

**【専門医会】**(40単位)

●**第4回リハビリテーション科専門医会学  
術集会**：10月16日(金)～18日(日)、下諏  
訪総合文化センター、朝貝芳美(信濃医療  
福祉センター)、Tel 0266-27-8414

**【地方会】**

●**第24回中部・東海地方会等**(30単位)：  
2月7日(土)、大正製薬(株)名古屋支店、  
青木隆明(岐阜大学附属病院リハ部)、Tel  
058-230-6333、Fax 058-230-6334

●**第25回九州地方会等**(40単位)：2月  
22日(日)、鶴陵会館(鹿児島大学病院  
内)、米和徳(鹿児島大学保健学科)、Tel  
099-275-6771、Fax 099-275-6771

●**第25回東北地方会等**(30単位)：2月  
28日(土)、山形市保健センター(霞城  
セントラル3F)、荻野利彦(山形大学整  
形外科学教室)、Tel 023-628-5355、Fax  
023-628-5357

●**第26回近畿地方会等**(30単位)：2月28  
日(土)、奈良県立医科大学蔵櫃(いつかし)  
会館、森本茂、堀川博誠(西大和リハビリ  
テーション病院リハ科) Tel 0745-71-6688、  
Fax 0745-71-1111、E-mail: narareha200902  
@yahoo-co.jp)、演題締切：1月31日

●**第42回関東地方会等**(30単位)：3月7  
日(土)、江戸川区総合区民ホール(タワー  
ホール船堀)、中島育昌(社会保険献沢病院)、  
Tel 0556-22-3135、Fax 0556-22-3884、演題  
締切：2月6日(金)必着

●**第25回北陸地方会等**(30単位)：3月28日  
(土)、ANAクラウンプラザホテル金沢、立  
野勝彦(金沢大学医薬保健研究域保健学系)、  
Tel 076-265-2620、Fax 076-234-4372、演題  
締切：2月20日(金)

**【専門医・認定臨床医生涯教育研修会】**

●**中部・東海地方会**(30単位)：1月24日(土)、  
江崎ホール、森山明夫(静岡医療福祉センタ  
ー)、Tel 054-285-0753、Fax 054-287-7982

●**関東地方会**(30単位)：2月21日(土)、前  
橋テルサ、白倉賢二(群馬大学医学部附属病  
院リハ部)、Tel/Fax 027-220-8655

◎**日本リハビリテーション医学会**(20単位)：  
3月22日(日)、大手町サンケイプラザ4階  
ホール、申込期限：3月11日(水)、日本リ  
ハ医学会事務局、Tel 03-5206-6011、Fax  
03-5206-6012

**【研修会】**(20単位)

◎**第3回一般医家に役立つ呼吸器のリハビ  
リテーション研修会**：2月21日(土)～22日  
(日)、全社協・灘尾ホール、対象：一般医家、  
受講料：25,000円(当日昼食代含む)、定員：  
200名、(株)サンプラネットメディカルコ

ンベンション事業本部(北尾華)、Fax  
03-3942-6396、学会HPより申込

**【実習研修会】**(20単位)

◎**第3回福祉・地域リハビリテーション実  
習研修会**：2月13日(金)～15日(日)、横  
浜市総合リハビリテーションセンター、横  
浜市立大学附属病院リハ科(加藤弓子)、  
Fax 045-783-5333

◎**第2回「動作解析と運動学実習」実習研  
修会**：3月26日(木)～28日(土)、藤田保  
健衛生大学、藤田保健衛生大学医学部リハ  
医学講座、Tel 0562-93-2167

**【試験】**

**第11回リハビリ科専門医へ移行するための試  
験**：3月22日(日)午後、大手町サンケイ  
プラザ4階ホール、申請締切：2月25日  
(水)必着(学会誌45巻11号または12号掲  
載の申請の手引き参照)

●◎**認定臨床医受験資格要件**：認定臨床医  
認定基準第2条2項2号(認定臨床医受験資格  
要件)に定める指定の教育研修会、◎：必須(1  
つ以上受講のこと)

**広報委員会**：田島文博(担当理事)、山田  
深(委員長)、阿部和夫、安倍基幸、大  
高洋平、志波直人、野々垣学、平岡崇

**問合せ・「会員の声」投稿先**：「リハニュ  
ース」編集部 〒113-0032 東京都文京区  
弥生2-4-16 (財)学会誌刊行センター  
Tel 03-3817-5821 Fax 03-3817-5830  
E-mail: r-news@capj.or.jp  
製作：(財)学会誌刊行センター  
印刷：三美印刷(株)

エーザイは、「運動器の10年」活動のパートナーとして運動を推進してまいります。



**エーザイ販売の主な**

創薬・指定医薬品  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**骨粗鬆症治療剤**  
**アクトネル<sup>®</sup>錠2.5mg**  
骨粗鬆症治療剤/骨ページェット病治療剤  
**アクトネル<sup>®</sup>錠17.5mg**  
<リセドロン酸ナトリウム水和物錠>  
骨粗鬆症治療用ビタミンK<sub>2</sub>剤  
**グラケー<sup>®</sup>カプセル15mg**  
<メナテレノン製剤>  
指定医薬品  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**筋緊張改善剤**  
**ミオナール<sup>®</sup>錠50mg 顆粒10%**  
<エペリゾン塩酸塩製剤>  
末梢性神経障害治療剤  
**メチコバル<sup>®</sup>錠250μg 錠500μg 錠0.1%**  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**メチコバル<sup>®</sup>注射液500μg**  
<メコバラミン製剤>

薬価基準収載 検体検査実施料収載

創薬・指定医薬品  
処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること  
**組織活性型鎮痛・抗炎症剤**  
**インフリー<sup>®</sup>カプセル100mg**  
**インフリー<sup>®</sup>Sカプセル200mg**  
<インドメタシン ファルネシル製剤>  
指定医薬品  
**経皮吸収型鎮痛消炎剤**  
**フェルビナクテープ70mg「EMEC」<sup>※</sup>**  
<フェルビナク貼付剤>  
創薬・指定医薬品  
**鎮痛・抗炎症・解熱剤**  
**ロキソプロフェン錠60mg「EMEC」<sup>※</sup>**  
<ロキソプロフェンナトリウム水和物錠>  
低カルボキシル化オステオカルシンキット  
血清中低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)測定用医薬品  
**ピコルミ<sup>®</sup>ucOC<sup>※</sup>**  
<電気化学発光免疫測定法>

●**効能・効果、用法・用量及び禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。**



ヒューマンヘルスケア企業

**エーザイ株式会社**  
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10  
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先：エーザイ株式会社 お客様ホットライン室  
☎ 0120-419-497 9～18時(土、日、祝日 9～17時)

SE0807-3 2008年7月作成